

**オピニオン****“現在の医療制度の疑問点について”**

中央区西支部 平 根 敏 光

平成15年5月より中央区西支部の医政部を担当することになりました。先生方何卒よろしくお願ひ致します。医政に関しては全くの素人で、目下勉強中ですのでよろしくご指導下さい。2ヵ月間の感想と私なりに解決できない部分について考えてみました。

まず、医療現場への株式会社参入の問題についてです。医学部6年間の教育を考えてみますと、まず基本的に患者さんの弱っている部分をいかに理解して、手助けを最大限の知識と技術を駆使して行うかということを知り、さらには人間性豊かな心を持って治療をすることを教えているものと理解していました。従って、営利目的に医療を行うことなど全く考えもしていませんでした。しかし現実とは異なっているように思います。私のこれまでの思考としては、NHKアーカイブスでの赤ひげ先生の番組のように、研修医が遭遇する医の倫理性と現実との狭間に難渋する場面の様であり、人間性を大切にしなければならぬと考えていました。さらには、医療全体を考えると、あくまで主体は患者さんであり物品ではなく、生きている人間であるということが大前提であります。すなわち人間に商品価値など存在してはならない、と考えるのが妥当ではないかと考えます。しかしながら、小泉内閣は平気で施行しようと考えているのです。医者も当然人間であることから、物欲主義的に走る傾向が出るものと考えられます。一生懸命に頑張っている医療を行っている医者の存在は、ほんの一部の少数の先生しか考えられなくなります。心と心のふれあいを大切に、多くの利益がなくても、人の生命保持や病気の回復へ努力しようとする医者は少なくなるものと考えられます。すなわち、むずかしい

病気や重症であった患者さんが回復されて、退院する時に“ありがとうございました。”と言う一言にどれだけ医者が勇気づけられ、やりがいを感じる場面であることが、多くの先生方は理解されていると思われませんが、医療体制全体の崩壊にもつながるものと思われます。株式会社が参入すれば、人間性や、やりがいよりも当然利益追求が主体となることは必至です。そこで働く医者も心の中では否定しながらも成績を上げることが主体となってくるものと考えられます。従って、私個人としては反対であります。

次に混合診療についてですが、保険診療と自由診療が同時に可能となるわけですが、平等性の崩壊につながるものと思われます。金持ちの方々には、IFN治療を何年でも受けることが可能となり、HCV (RNA) は消失することになります。しかしながら貧乏の人は、IFN治療のしづりがあり、HCV (RNA) は消失してくれません。従ってHCC発現のリスクは上昇するものと思われます。さらには、保険制度そのものの崩壊に直結しているものと考えられます。従って、私個人としては反対であります。

次に、小泉内閣の柱の1つである経済財政諮問会議についてです。本来、日本の経済や財政に関することが論議される所であるものと私は理解しておりましたが、現実とは何かしら違う所のように思われます。すなわち、経済や財政に造詣の深い大臣や経済界のVIPが出席されておりますが、医療制度や医療体制に造詣の深い方々が一人もおられません。ときどき、坂口厚生労働大臣が参考程度で出席されておりますが、坂口大臣も医者ではあります現場を離れてから久しく、ひと昔前の医療体制で (CT

scan・US・PETなどはなかったと思われます。) 経験されたと考えられます。従って、こういった医療と全く関係のない所で、「骨太第3弾」の基本方針2003に反映させ、重点検討事項(12項目)と題うって決定されようとしております。私なりに、なぜこのような医療体制の問題検討をするのに医者や医療関係者が常任で出席されていないのであろうか、ということが理解できませんでした。さらには、現場の声が全く反映されずに重点検討事項内に株式会社参入の問題、混合診療の解禁、労働者派遣業務の医療分野への対象拡大、医薬品の一般小売店における販売項目がとり上げられております。それぞれの項目どれ1つを考えても、現場の担当している医者や医療関係者の考え方が参考とされるべきものと思われます。経済・財政活動の中に医療体制を考えるのではなく、独立して検討していくべきものと考えられます。このような考え方では、医療体制の崩壊が目に見えているように思われます。医者として、医療体制を経済体制と同時平行で検討してもらいたいと考えます。胃潰瘍や12指腸潰瘍の原因の1つとし

てヘリコバクターピロリ菌が認められております。この菌が胃内に存在すると胃粘液が大変濁っていて透明度がありません。ところが3剤にて(LPZ、CAM、AMPC)除菌し、成功すると胃粘液の透明度が回復して大変きれいになります。この時、GIF(胃内視鏡)で粘液湖内を観察すると、水面下に胃粘膜ヒダが鏡に映るが如くMirror imageを認めます。この状況を作り出すことが大切であると考えられます。医療制度の構造改革も、除菌治療が成功すると同様に透明性を上げるように行うべきものと思われます。除菌治療に失敗すると、ヘリコバクターピロリ菌の菌数は低下しますが、粘液湖内は濁っており、いわゆる笹濁り状況です。これでは、再び胃潰瘍や12指腸潰瘍が発症します。現在の日本の状況は、全くこの笹濁り状態であり、たくさんの病気や併害が発症する可能性があります。従って、早く現場の状況を反映させるように医者1人1人が自覚を持って医師会活動や市民教育活動に参加すべきものと思われます。

(同交会病院)

